

## 「いろは順」と「とりな順」

JJ1SXA/池

CQ誌3月号・JH1JDI局の「和文モールス通信入門」の記事中に取り上げられていた「鳥啼歌」、私も和文送信練習の最初の頃(1977年頃…随分昔になりました hi)は、「いろは順」48文字と共に、こちら「とりな順」49文字(こちらは「ん」が入っている)を練習に使ったことがあります、当時は、暗誦していましたが、今は一寸覚束ない有様。

この「いろは順」と「とりな順」に関し、Wikipediaによると、…いろは歌とは、すべての仮名を重複させずに使って作られた誦文のこと、七五調の今様の形式となっている。のちに手習いの手本として広く受容され、近代にいたるまで用いられた、また、その仮名の配列は「いろは順」として中世から近世の辞書類や番号付け等に広く利用された、ここから「いろは」は初歩の初歩として、あるいは仮名を重複させないもの、すなわち仮名尽しの代名詞としての意味も持つ。…となっている。

1903年に万朝報という新聞が、新しい「いろは歌」を募集、通常の「いろは」に、「ん」を含んだ49文字という条件で作成されたものである。

一等には、坂本百次郎の以下の歌が選ばれ、「とりな順」として、戦前には「いろは順」とともに使用されていた。…との記述があります。

「いろは歌」はご存知の通り、以下のようになっています。

色は匂へど 散りぬるを 我が世誰ぞ 常ならん 有為の奥山 今日越えて 浅き夢見  
じ 酔ひもせず(いろはにほへと ちりぬるを わかよたれそ つねならむ うみのおくや  
ま けふこえて あさきゆめみし ゑひもせず)

「とりな順」の「鳥啼歌」は以下の通りです。

鳥啼く声す 夢覚ませ 見よ 明け渡る東を 空色映えて 沖つ辺に 帆船群れいる  
靄のうち(とりなくこゑす ゆめさませ みよあけわたる ひんかしを そらいろはえて  
おきつへに ほふねむれぬぬ もやのうち)

「東」は「ひんがし」と読み、見事に「ん」を含んだ49文字です。

今は使われなくなった、「ゐ」や「ゑ」、私は小学校で習いました、ちなみに、いわゆる旧仮名使いでは、「しましよう」は「しませう」、「だろう」は「だらう」、「学校・がっこう」は「ぐあっこう」でしたし、昆虫の「蝶々・ちょうちょう」は「てふてふ」でした、小学校と書きましたが、入学したのは、国民学校でした、歳がわかろうかと思えます hi。

そんな国民学校の一年坊主の頃、友達同士、「しませう」「そうだらう」「ぐあつこう」などと、カナを一文字ごと忠実に発音して、ふざけながら遊んでいた遠い昔を思い出します、本当に昔、昔のことです。

使いもしない「ゐ」や「ゑ」のモールスも覚えましたが、こちらも懐かしい話です、モールスの合調語は、「威光発揚・ゐこうはつよう/・ー・ー」、「回向冥福・ゑこうめいふく/・ー・ー」、通話では、井戸の「ゐ」、絵の具の「ゑ」です。